

## 令和6年度講演会 実施報告

「発達障害のある子とその家族がもっといきいき過ごせるように

～思春期・青年期をうまく乗り越えるためには～」

令和6年7月19日(金)～7月29日(月)にかけて、令和6年度ポラリス講演会をオンデマンド配信にて実施しました。

講師には常葉大学教育学部 初等教育課程 特任教授の笹森 洋樹先生をお招きし、『発達障害のある子とその家族がもっといきいき過ごせるように～思春期・青年期をうまく乗り越えるためには～』をテーマにご講演頂きました。笹森先生は特別支援教育がご専門で、障害のある子どもの教育のみならず、子どもの多様な教育的ニーズという視点から学校教育の在り方について研究されておられます。

ご講演では、「子どものニーズと自己肯定感」、「思春期・青年期の発達障害の特性と支援」についてお話を頂きました。障害名だけで判断せず、児童生徒一人一人の特性に応じた支援が重要であること、また自己肯定感を高めるためには、学習やソーシャルスキルを磨くだけではなく、周りとの関わり(評価や承認など)が重要であるとの話がありました。思春期・青年期には、中学、高校、大学と進学をしていく中で、それぞれの学校で求められる能力や対応力に違いがあることを認識すること、自己肯定感が低いまま進学してきた生徒もいるので、出来たことを認めるのではなく、出来ていることを認める関わり方を行うことと合わせて、本人のプライドに配慮しながらサポートを行っていくことも大切であるとの話がありました。

ご視聴頂いた皆様からは、「切れ目のない支援をするために、その人にあった支援方法を考える必要性を改めて理解することができました」、「1人1人にあった支援や、年齢によって異なる対応方法をしっかりと理解した上で行う支援の大切さを学ぶことができました」等の感想がありました。

学童期・思春期・青年期それぞれの年代で生じる、発達障害の特性に起因する困りごとへの理解、それに基づいた支援の大切さ、そしてバトンタッチではなく、伴走型の切れ目のない支援の重要性について、大変分かりやすくご講演を頂きました。